

令和7年度 日南市立南郷中学校 学校経営報告書

○ 学校経営ビジョン

「協力」「協調」「協働」をキーワードに、【Team 南郷】として学校教育目標の具現化に努め、保護者や地域に信頼され、一人一人が輝ける学校を創造する。

4段階評価 [ 4 期待どおり 3 ほぼ期待どおり 2 期待を下回る 1 改善を要する ]

令和8年3月

重点目標	評価項目	具体的取組・実践(数値)目標	指標別評価	学校評価	結果の考察・分析及び改善策	総合評価	学校関係者評価及びコメント
1 学力の向上(知) ◆ 自ら学びに向かう生徒を育成する。	① 基本的な学習方法の確立 ＜『南郷スタイル』の徹底、家庭学習方法の工夫＞ ② 授業改善の推進 ＜問いをもつ「めあて」と「まとめ」の整合性、相互参観授業の充実＞ ③ 個に応じた指導・支援の充実 ＜組織的な個別支援体制の整備研修の充実＞	・ 『南郷スタイル』を通して基本的な学習方法の徹底を図り、落ち着いた学習態度の育成を図る。 また、家庭学習の工夫を行いながら家庭学習の時間の増加を図り、定期テストにおける無回答率の減少や正答率の増加を目指す。 ・ 日々の授業において、「ひなたの学び」を意識した「めあて」と「まとめ」の整合性のある授業を行い、学習内容の精選を図る。また、相互参観授業 WEEK を実施し、PDCA サイクルに沿った授業改善を行う。 ・ 学期に1回校内教育支援委員会を開催し、特別支援教育に関する研修の充実を図るとともに、個に応じた指導・支援の充実につながる組織的な個別支援体制の整備を図る。	2 2 3 3	2.5	① 学級や学年によって差が見られるが、『南郷スタイル』を通して、生徒が意欲的で落ち着いた学習態度までには至っていない。学習規律の徹底がより求められる。 ② 毎日の家庭学習の充実に向けて、今後とも家庭と連携しながら学力の定着を図る必要がある。 ③ 相互授業参観 Week を年2回実施し、自分の授業(動画)も含めた授業参観を行って改善に努め、「4+4のチェックポイント」や「ひなたの学び」を意識した授業力向上につなげた。 ④ 校内教育支援委員会6回、チーム支援会議5回を実施し、特別支援教育に限ることなく、組織的な個別支援体制の充実を努めた。	2.9	○● 学校側は学力向上に尽力されているが、保護者の理解と意識が低すぎるのではないかとと思う。 ○● 先生方の努力はありがたいと思いますが、子ども達に繋がっていないのが残念です。勉強の仕方が分からない子どももいるのではないのでしょうか。 ● 学力について、家庭での勉強の在り方、授業への取組方。 □ 自ら学ぼうとする姿勢が大事だと思う。やる気にさせるきっかけは人それぞれでは。 □ 学力向上には、自分の将来を見付けると、自分が今すべきことが見えてくると思う。 □ 学力向上については永遠の課題ですが、本人に目標がなければなかなか成果を上げることは困難だと思います。地道な取組をお願いします。
2 心の教育の充実(徳) ◆ 『ルール・マナー・モラル・エチケット』の視点で判断し、豊かな人間性や社会性を身に付けた、自律した生徒を育成する。	① 基本的な生活習慣の確立 ＜自律型校則の浸透、凡事徹底、脚下照顧＞ ② 人権意識の高揚 ＜生徒間、教師と生徒間の人間関係の醸成、情報モラル教育の充実＞ ③ 安心・安全な生活の確立 ＜生活アンケート、教育相談、主任会、関係機関との連携、校内支援委員会＞	・ 自律型校則が浸透するよう、適宜学校生活について考えさせる指導を行う。その中で、時間を守る、あいさつをする、返事をするなどの凡事徹底を図り、靴並べ指導「脚下照顧」も継続し、基本的な生活習慣の確立を図る。 ・ 日頃から各種のコミュニケーション活動を通して、生徒同士、教師と生徒とのよりよい関係づくりにつなげ、人権意識の高揚を図る。特に情報モラル教育については、ネットトラブル防止教室を実施するなど、意識を高める啓発を図る。 ・ 安心・安全な生活となるよう、月に1回生活アンケートを実施し、いじめの早期発見・解決に努めるとともに、教育相談の充実を図る。また、週に1回主任会を実施し、巡回相談員やスクール・カウンセラーとも情報を共有しながら、不登校生徒や気になる生徒の共通理解を図る。さらに、月に1回チーム支援会議を開き、スクールワイドPBS等の理解と実践を図る。そのような取組を通して、各行事の運営に生徒が積極的に携わり、生徒主体での活動を推進していく。	3 3 2 3 3	2.8	① あいさつ・返事についてはよくできているが、学校に限らず地域でもできるように、今後も指導をしていく。 ② 時間や整理整頓は、リーダーや係活動を中心に継続して向上を目指していく。自律型校則について、生徒の意識に差があり、今後とも場面に応じた指導が必要である。 ③ スマホやタブレットの使用について、ネットトラブル対策として外部指導者を招いたり、全校集会等で繰り返し指導したりしている。継続的な指導が必要である。 ④ 人権を侵害する発言が見られるので、家庭を含めた継続的な指導が必要である。 ⑤ 生活アンケートを月に1回実施し、巡回相談員やスクール・カウンセラーとも情報を共有しながら教育相談を毎週行い、いじめ等の早期発見・早期解決に努めることができた。また、週に1回主任会を実施し、不登校や気になる生徒の状況や対応について共通理解をすることができた。チーム支援会議では、スクールワイドPBSについての理解を深め、生徒の特性について共通理解を図ることができた。対話的な授業や教育相談等を通して、よりよいコミュニケーションづくりにつながるようにしている。	3.0	○ 地域でのあいさつは、登校時よくできていると思う。地区住民の方も、子ども達に声掛けを心掛けるようにしたい。 ○ ⑤の取組については、ありがたいです。 ●○ 自ら積極的にあいさつができる生徒が少ないように感じる。横断歩道でのあいさつはできている。 ● 過保護すぎる親の育て方にも問題があるのかもしれない。守られすぎているのかと思います。 ● スマホ、タブレット、SNSなどに接する機会が多く、使い方、モラルなど、保護者も一緒に学ばなければならぬ。 □ 今の自分に自信がもてるよう、生徒に自信を付けさせる。 □ ネットトラブルが大きな社会問題化しています。ほとんどの生徒がスマホを所持していると思われるので、引き続き細やかな指導をお願いします。
3 健康・安全教育の充実(体) ◆ 心身ともに健康な生徒を育成する。	① 健康教育の推進 ＜う歯予防・治療促進、心身の健康相談、肥満防止＞ ② レインボープランの推進 ＜いのちの教育、性に関する教育＞ ③ 安心・安全な生活環境づくりの推進 ＜防災教育、感染症対策＞	・ 体育の授業や部活動の充実を図るとともに、う歯予防・治療促進(う歯治療率50%を目指す)、心身の健康相談、肥満防止の取組を通して、心と身体の健康に努める。 ・ 学期に1回いのちの教育や性に関する教育を各学年で実施し、生命に対する畏敬の念や自己存在感の向上を図る。 ・ 各種の避難訓練を実施し、避難場所や避難経路の確認を全校生徒で行い、常時天災において避難できる生徒100%を目指す。また、手指消毒や手洗い・うがいを徹底して感染予防に努め、安心・安全な生活環境づくりを推進していく。	3 3 3	3.0	① 教育相談を活用したう歯治療指導により、治療率が大きく向上した。(R6 46% → R7 62%) 今後とも家庭を含めた啓発に努めていく。 ② 積極的に運動を行う生徒は9割を超えているが、体力テストの結果が平均以下であるため、体づくり運動を通して手軽な運動への実践意欲を高めていく。 ③ 各学級において、学期に1回同様の内容で、いのちの教育や性に関する教育を実施することができた。 ④ 5月に避難経路・地区別避難場所の確認を行い、年2回(地震・津波、火災)避難訓練を実施した。手指消毒や手洗い・うがいの徹底に努めたが、2度学級閉鎖があった。	3.6	○ 歯科治療が大きな成果を上げています。今後も継続的な取組をお願いします。 ● 体力テストでは、インドアの子どもの数が増えているので仕方ないですね。部活動の時だけ体を動かす! ● 適切な運動が、少し少なくなっている。 □ どんな環境でも、自分の生命は自分で守る。そしてその生命を守るために助け合う。日本民族の素晴らしい素晴らしさを教える。 □ いのちの教育は、生きていく中で大事なことだと思う。相手を思い自分がされたら嫌なことはしない等、基本的なことを学んでほしい。そして、家族の中で、なかなか話すことができない性についても。
4 家庭・地域との連携 ◆ 家庭や地域と連携し、地域から誇りにされる開かれた学校を創造する。	① 地域の素材・人材を生かした体験的で質の高い学びの実現 ＜日南の魚を活用した体験、シーカヤック体験＞ ② 地域に貢献できる教育活動の創造「南郷への恩返し」 ＜ボランティア活動の積極的参加＞ ③ 開かれた学校づくりの促進 ＜各種「たより」による情報発信、学校運営協議会との連携＞	・ 総合的な学習の時間を中心として、地域コーディネーターと連携しながら、日南の魚を活用した体験やシーカヤック体験等、地域に根差した活動を学期1回以上実施し、日南ふるさと学の充実を図る。 ・ 「南郷への恩返し」として、地域の求めに応えることができるよう生徒の奉仕の精神を高め、学期に1回以上各種ボランティア活動への参加を通して、自主的に地域に貢献できる教育活動の充実を図る。 ・ 学級通信、学年通信、学校 Web ページ等による情報発信を週1回以上行い、開かれた学校づくりを促進する。また、学校運営協議会を年3回実施すると共に、委員の方に学校の様子を機会あるごとに参観していただきながら、学校が抱える課題の解決を目指す。	4 4 4	4.0	① 総合的な学習の時間を中心に、地域に根差した活動を計画的に実施することができた。今後とも地域コーディネーターと協力しながら、より活動の幅を広げていく。 ② ちょボラ部ができるなど、校内・地域のボランティア活動に、自主的に多くの生徒が参加することができた。今後ともこの輪を広げていく。 ③ 各種通信により、毎週情報発信をすることができた。保護者を中心に各行事や参観授業を見てもらい、生徒の様子を伝えた。また、年3回の学校運営協議会において、学校が抱える課題解決に向けて協議を深めることができた。	3.8	○ 地域ボランティアに積極的に活動していてとてもよかった。地域との関係がとてもよく繋がっている。 ○ 南郷中学校は他校に比べ、家庭・地域との連携がよく取れていると思います。今後も南郷ならではの取組に期待します。 ○ ありがたいと思います。 □ これからも、様々な場所や地域等で、ボランティアに中学生の力を出してほしい。 □ 自分の故郷、思い出に残る故郷は、自分達でつくる。そして、故郷の一員になる。